

学校教育目標

「三つの花」を咲かせる西部っ子



にこにこ花 楽しくあいさつができる子
 ほかほか花 相手の心を思いやることができる子
 きらりん花 きらきらと自分らしく輝く子

あしたも
行きたくなる学校



校歌「光の朝」とともに

令和3年度もいよいよ残すところ1か月となりました。この1年間、夏、冬ともにアジアで開催された2つのオリンピックをテレビで観戦することができました。つい先日閉幕した冬季北京オリンピックでは小林陵侑選手のジャンプノーマルヒルの金メダルは50年ぶりでした。1972年札幌オリンピックで笠谷幸雄選手はじめ日本人3選手が、メダルを独占したことを当時小学生だった私は今でも鮮明に覚えています。笠谷選手の記録は80mを超えた程度でしたが、ノーマルヒルでの小林選手のジャンプは100mを超えました。50年という年月で、選手の技術・体力はもちろん、道具やウェアに至るまで、全てが格段に進歩しています。50年前の西部小学校の歴史を調べてみますと、校名は西加積小学校、現在の西加積認定こども園の場所（下梅沢）にありました。この時の校長は清田修印先生（清田秀夫先生のお父様）、児童数は210名、7クラスで教職員数はわずか9名でした。

学校名も校舎の場所は今と違いますが、50年前と変わっていないのは校歌「光の朝」です。本校校歌は作詞高島高（たかしま たかし）氏、作曲平井康三郎氏によって昭和29年（1954年）8月につくられた歌です。この年は滑川市政が施され、滑川市立西加積小学校として創立80周年を迎えた記念すべき年でした。高島高氏は1910年生まれの詩人で、滑川市出身です。本校の小会議室には校歌創作のために手書きされた楽譜が額の中に保管されておりました。校歌ができて今年で69年目、これまでも約5000人の子供たちが校歌とともに西部小学校を巣立っていったこととなります。その校歌もこの2年間新型コロナウイルス感染対策で入学式等の行事で歌うことを控えています。みんなで歌う機会がなく、校歌を忘れてしまわないように、毎日校内放送で校歌を流しています。



タイトル「光の朝」という言葉が出てくる3番目の歌詞からは、みんなで一緒に自分の夢に向かって明るく元気に歩んでいこうという意気込みが感じられます。振り返れば私の母校の校歌にも「光をあびて歩こうよ」という一節があったことも思い出し、大変うれしい気持ちになりました。令和の時代も学校に校歌が響き渡り、卒業する子供たちには西部小学校での思い出を一生の宝物にして、いつまでもこの歌詞とともに人生を歩んでもらいたいと願っています。

われらは若葉だ 光の朝だ
 遠いあこがれ 心にえがき
 元気で行こう ほがらかに
 清く仲よく ひとすじに

（教頭 角川 誠）

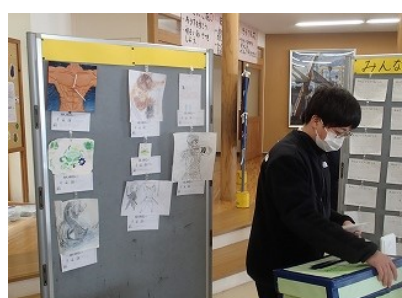
西部っ子 冬の学校生活から



<2月3日 4・5・6年スキー教室（立山山麓スキー場）>
雪や天気にも恵まれ笑顔いっぱいのスキー教室となりました。たくさんの保護者や地域の方にご協力していただきました。本当にありがとうございました。



<2月9日 1・2・3年冬に親しむ集会>
雪上ドッチボールや雪だるまづくり、雪玉ばくだんゲームを行いました。下学年に声をかけ、優しく接する3年生。活動を通して成長しました。



今年も北陸の冬らしくたくさんの雪が積りました。5・6年生はみんなのために除雪を一生懸命がんばりました。大変頼もしい限りで心が温かくなります。校内では元気タイムに縄跳びをして体力づくりに励む子供たちでいっぱいです。西部っ子美術館が企画され、西部っ子のたくさんの作品が展示されました。キラリン花が満開です。